

2022年5月20日

赤い羽根 災害ボランティア・NPO 活動サポート募金
「災害時のボランティア活動資機材ネットワーク」助成決定にあたって

はじめに

今後発生が予測されている南海トラフ地震や首都直下地震のような大地震、複数の都道府県にまたがる広範囲の風水害等の大規模災害が発生した際には、被災者支援を行うボランティア活動の連携が求められます。そのため、平時から発災時の対応能力を高め、迅速なボランティア活動の体制づくりにつなげていけるよう、様々な立場の人たちの力をあわせ、備える必要があります。

そこで、中央共同募金会では、赤い羽根「災害ボランティア・NPO 活動サポート募金（ボラサポ）」への寄付を財源として、災害時のボランティア活動にかかる資機材等の整備やそれを活用するためのネットワーク構築を行うことにより、各都道府県・指定都市域における効果的かつ持続可能な支援活動を面的に広げることを目的として「災害時のボランティア活動資機材ネットワーク助成」を実施することとしました。

また、本助成事業を通じて、都道府県・指定都市域ごとに保有している資機材の情報を全国的に共有する仕組みをつくり、効果的に資機材提供を行うためのネットワーク構築を目指すものです。

5月9日、「災害時のボランティア活動資機材ネットワーク助成」の助成先を決める審査委員会を開催し、5県・1政令指定都市の6団体の事業に対して、合計2,750万円の助成を決定しました。

本助成を活用いただき、被災地における災害ボランティア・NPO活動の環境整備と体制づくりが一層推進されることを期待しています。

1 応募状況と助成決定状況

2月1日から応募開始した助成公募では、8件、合計3,816万円の応募があり、5月9日の審査委員会において、応募要項の趣旨および要項に記載した「審査にあたって重視する点」等に照らして審査を行った結果、5県・1政令指定都市の6団体の事業に対して、合計2,750万円の助成を決定しました。

2 選考にあたっての考え方（審査委員長コメント）

本助成は、各都道府県・指定都市圏域における災害時のボランティア活動にかかる資機材等の整備およびその活用のためのネットワーク構築を目的とするものであり、近年頻発する大規模災害発生時におけるボランティア・NPO活動の体制づくりにとって、大変画期的で非常に意義深いものです。

今回初めてとなる第1回助成の審査が、本助成の今後の方向性や一定の基準を示すものと

なるとの認識から、応募要項に審査基準として示した項目を重点に、審査委員会において慎重な審査を行いました。

- ・具体的な活動内容や経費精算が読み取れる内容となっているか
- ・目標や問題意識が明確になっているか
- ・プロジェクトを実施するための手法が明確で適切であるか
- ・災害発生時に被災地の災害 VC へ迅速な資機材提供の体制が整えられるか
- ・さまざまな団体や組織と連携や協働により行われる事業であるか
- ・助成事業終了後の事業継続を行うための実施体制が構築されているか

審査委員会では、応募団体自らが資機材を保管し、提供するのではなく、災害ボランティアセンター運営の役割を担う社会福祉協議会をはじめとした多様な機関・団体が参画したネットワークによって、被災時に迅速に資機材が災害ボランティア活動の現場に提供される体制が整っているか、という観点を中心として議論を行い、助成を決定しました。

なお、今回助成が決定された団体が所在する地域は、栃木県、山口県、徳島県、長崎県、熊本県、名古屋市であり、地域的には西日本が中心となりましたが、次年度の公募においてはぜひ東日本の各都道府県・指定都市から多くの応募をいただくことで、資機材ネットワークが全国的にバランスよく整備されることを期待します。

また、本助成によって整備された資機材は、各助成決定団体においてリスト化され、全国的な共有が図られることとなっておりますので、この資機材リストの全国共有のしくみが一刻も早く実現され、被災地支援の大きな力となることを願っています。

最後になりますが、全国の個人・企業の皆さまよりボラサポに多くのご寄付をいただきましたことに深く感謝しますとともに、今回、助成が決定した団体の皆さまにおかれては、寄付者から託された貴重な財源による助成であることを理解いただき、有意義な活動を展開されるよう望みます。

また、一昨年来の新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、被災地外からの人の往来に制約が生じたことなどにより、被災者を支える人・資源の不足が課題となっておりますが、今後は感染防止への十分な注意を払いながら、被災地でのボランティア活動が再び活性化することが望まれています。本助成により災害ボランティア・NPO 活動の環境整備が図られ、被災者支援活動の充実および被災地の復興につながることを期待します。

災害ボランティア・NPO 活動サポート募金
審査委員会 委員長 菅 磨志保